



■ 適用病害虫と使用方法

2021年1月現在

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	シアントラニプロールを含む農薬の総使用回数	ジクロベンチアゾクスを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病、イネミズゾウムシ、イネドロオウムシ	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5ℓ) 1箱当り50g	は種時(覆土前)～移植当日	1回	育苗箱の上から均一に散布する。	1回	1回
			は種前		育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する。		
	移植当日		育苗箱の上から均一に散布する。				
稲	白葉枯病、もみ枯細菌病、ヒメトビウンカ、ツマグロヨコバイ、フタオビコヤガ、ニカメイチュウ、コブノメイガ、イネツムシ、イネヒメハモグリバエ、イナゴ類	1kg/10a	は種時	1回	は種同時施薬機を用いて土中施用する。側条施用	1回	1回
			移植時				

【使用上の注意事項】

- 本剤を床土または覆土に混和処理する場合、処理後速やかに使用してください。また、本剤を処理した床土または覆土を放置しないでください。
- 所定量を育苗箱中の苗の上から均一に散布してください。なお、葉に付着した薬剤は軽く払い落とすしてください。
- 育苗箱の土壌表面が乾燥していて苗を田植え機にのせる際、薬剤が落下するおそれがある場合は散布後葉に付着した薬剤を払い落とす後軽く灌水してください。
- 軟弱徒長苗、むれ苗または苗の生育が不良な場合には、薬害を生じるおそれがあるので注意してください。
- 側条施用をする場合は、粒剤が均一に散布できる施用装置を装着した田植機を使用してください。
- 本田の整地が不均整な場合は薬害を生じやすいので、代かきはいないに行い、移植後に田面が露出しないように注意してください。
- いぐさ栽培予定水田では使用しないでください。また、本剤を処理した稲苗を移植した水田及び隣接した水田ではいぐさを栽培しないでください。
- きく等の他作物に影響を及ぼす場合があるので、薬剤が育苗箱からこぼれ落ちないように処理を行ってください。また、土壌全面に不透水性無孔シートを敷くなど、薬剤処理後の灌水による土壌への浸透をさけてください。
- 本剤の使用に当っては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病虫害防除所等関係機関の指導を受けることをお勧めします。
- 使用の際は農業用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用してください。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするともに衣服を交換してください。
- 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯してください。
- かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意してください。
- 水産動植物(甲殻類)に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に流入しないよう水管理に注意してください。
- 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。

本資料は2021年1月現在の知見に基づいて制作しております。

●使用前にはラベルをよく読んでください。●ラベルの記載以外には使用しないでください。●本剤は小児の手の届く所には置かないでください。●防除日誌を記載しましょう。

水稻 育苗箱用 殺虫・殺菌剤



箱粒剤





特長

新規の抵抗性誘導剤ブーン®(一般名:ジクロベンチアゾクス)を配合

ブーン®はクミアイ化学工業株式会社が創製し、JA全農(全国農業協同組合連合会)と共同で開発した新規殺菌剤です。ブーン®は植物の病害応答反応を増強して病気にかかりにくくする病害抵抗性誘導剤として作用し、いもち病に高い効果を示します。また、水稻へ高い安全性を示します。

初期害虫、チョウ目害虫を総合的に防除可能

ブーン®にサイアジピル®を配合することでいもち病に加えて初期害虫、チョウ目害虫と水稻で問題となる主要病害虫を幅広く防除します。

播種前～移植当日まで幅広い処理適期

水稻に対する安全性が高く、効果の持続性も長いため1製剤で播種前(床土・覆土混和)から移植当日まで育苗期間のいつでも使用できます。



いもち病



イネミズゾウムシ



イネドロオイムシ



フタオビコヤガ

有効成分と物理化学的性状

商品名: ブーンパディート箱粒剤
 農林水産省登録: 第24371号
 開発コード: KUM-1601箱粒剤
 種類名: シアントラニプロール・ジクロベンチアゾクス粒剤
 性状: 類白色細粒

有効成分	シアントラニプロール	ジクロベンチアゾクス
含有量	0.75%	2.0%
化学名	3-プロモ-1-(3-クロロ-2-ピリジル)-4'-シアノ-2'-メチル-6'-(メチルカルバモイル)ピラゾール-5-カルボキサニド	3-(3,4-ジクロロ-1,2-チアゾール-5-イルメトキシ)-1,2-ベンゾチアゾール=1,1-ジオキソド
構造式		
分子量	473.72	349.21
水溶解度(20℃)	14.2mg/L	0.36mg/L

安全性

■製剤安全性

人畜毒性(製剤):普通物(毒物・劇物に該当しないものを指している通称)

試験の種類	供試動物	LD ₅₀ (mg/kg)
急性毒性(経口)	ラット♀	>2000
急性毒性(経皮)	ラット♂♀	>2000
皮膚刺激性	ウサギ	刺激性なし
眼刺激性	ウサギ	極軽度刺激性
皮膚感作性	モルモット	感作性あり

■水産動植物への影響

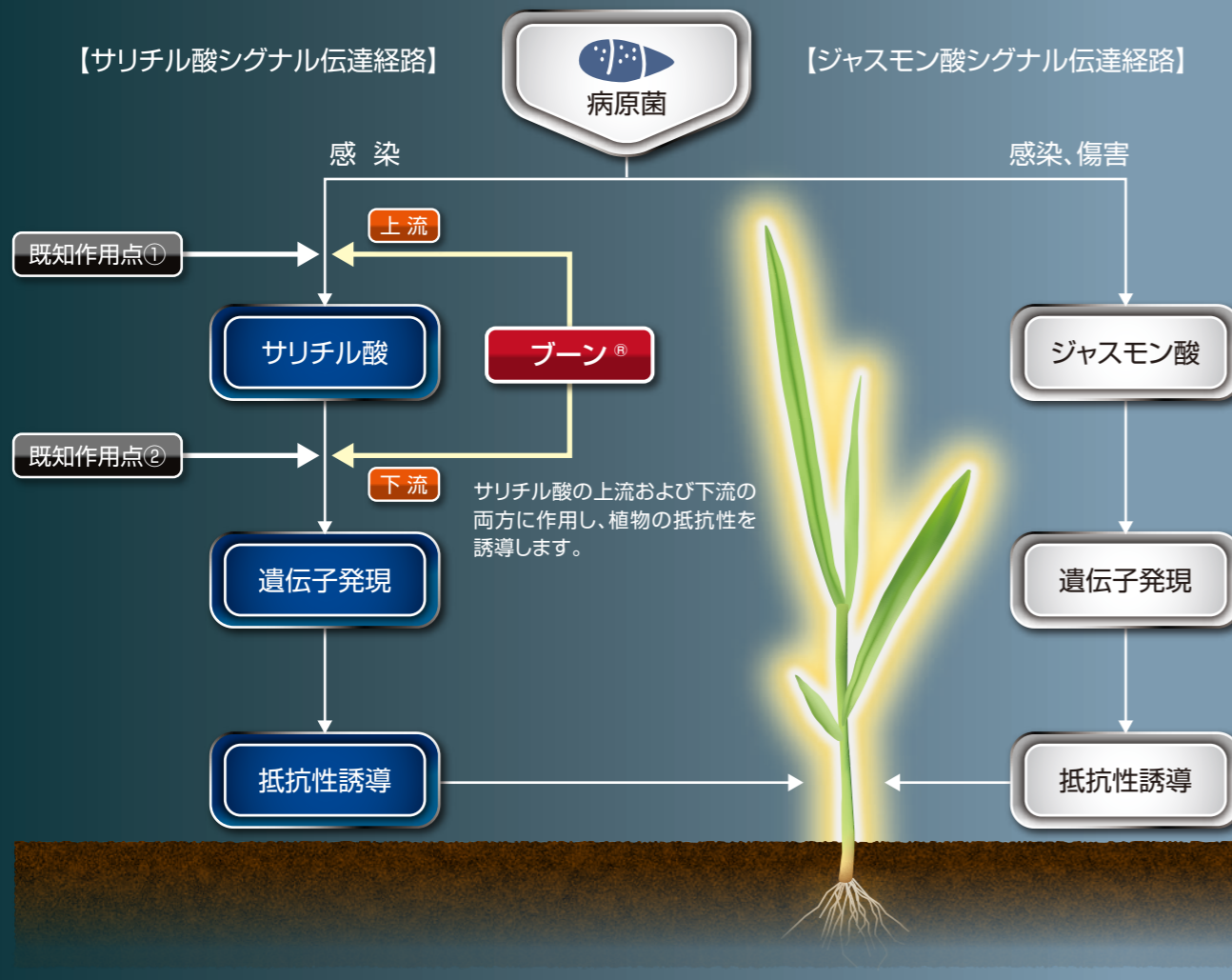
試験の種類	供試動物	LD ₅₀ またはEC ₅₀ (mg/L)
魚類急性毒性	コイ	>1000
ミジンコ類急性遊泳阻害	オオミジンコ	0.20
藻類生長阻害	緑藻	560



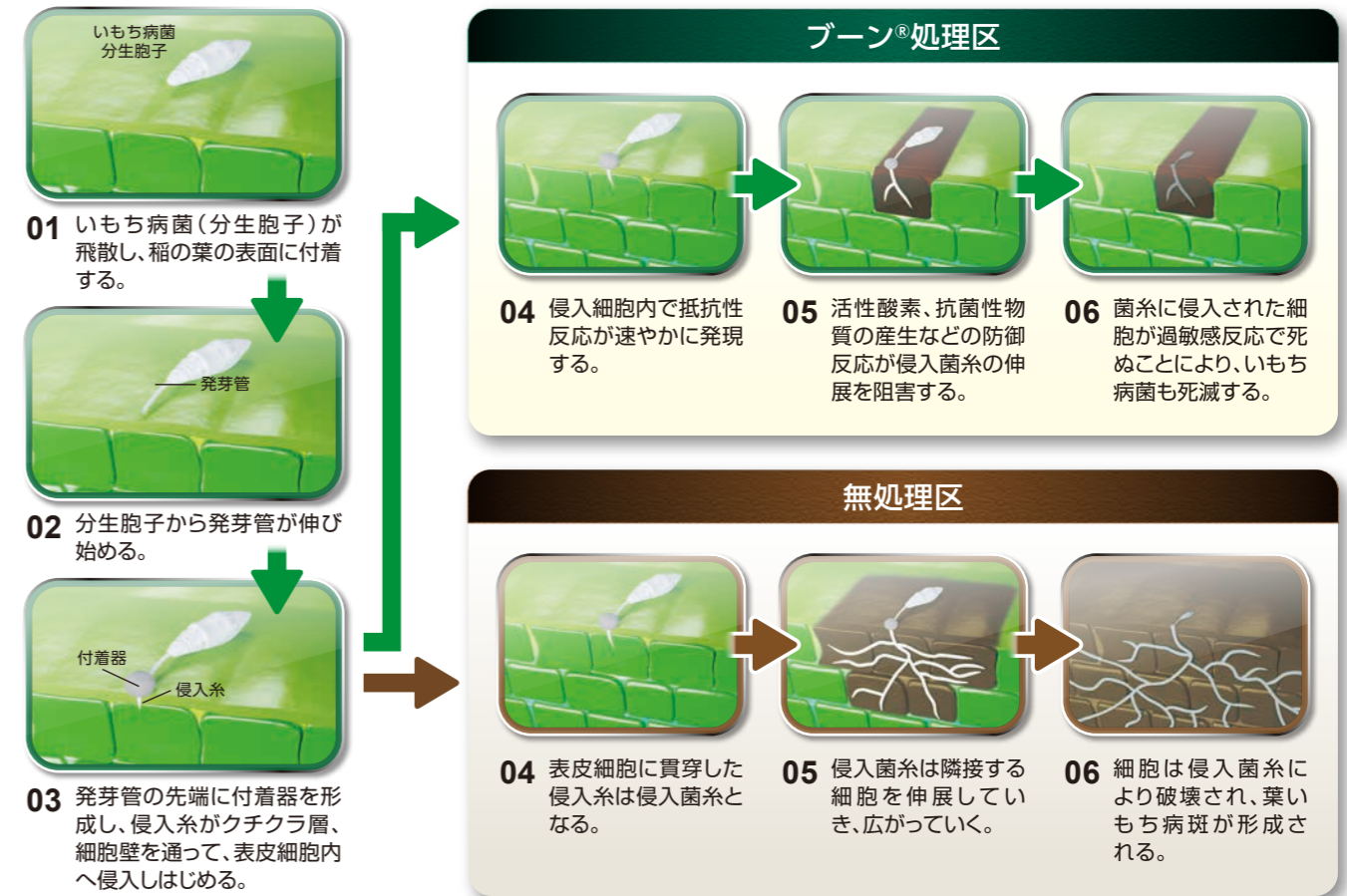
ブーン® (一般名:ジクロベンチアゾクス)

サリチル酸シグナル伝達経路を介した抵抗性誘導

ブーン®は、植物が本来備えている病害抵抗性を増強させる作用をもちます。処理すると有効成分が植物体内に移行し、植物の病害応答反応の1つであるサリチル酸シグナル伝達経路を活性化させ、植物体全体に防御反応を誘導します。(全身獲得抵抗性: SAR) 特に、ブーン®はサリチル酸合成の上流と下流の両方に作用するため、植物の病害抵抗性を安定して誘導すると考えられます。



いもち病菌の生活環とブーン®の作用性(模式図)



シアントラニプロール

筋肉細胞の筋小胞体は細胞内のカルシウムイオン濃度を調整することにより筋肉の収縮・弛緩をコントロールしています。シアントラニプロールは、筋小胞体のリアノジン受容体(RyR)に結合して筋小胞体内のカルシウムイオンを細胞内に放出させます。その結果、対象害虫は筋収縮を起こし速やかに活動を停止し、死亡します。

- ①コウチュウ目、チョウ目、及び一部のカメムシ目に高い効果を示します。
- ②既存薬剤に効果が低下した害虫にも高い効果を示します。
- ③主に経口で作用を発揮し、速やかに食害・吸汁害を停止させます。
- ④イネ体内への浸透性に優れています。
- ⑤長い残効を有します。
- ⑥人畜・鳥類・魚類への安全性が高く、天敵類へも高い安全性を有します。

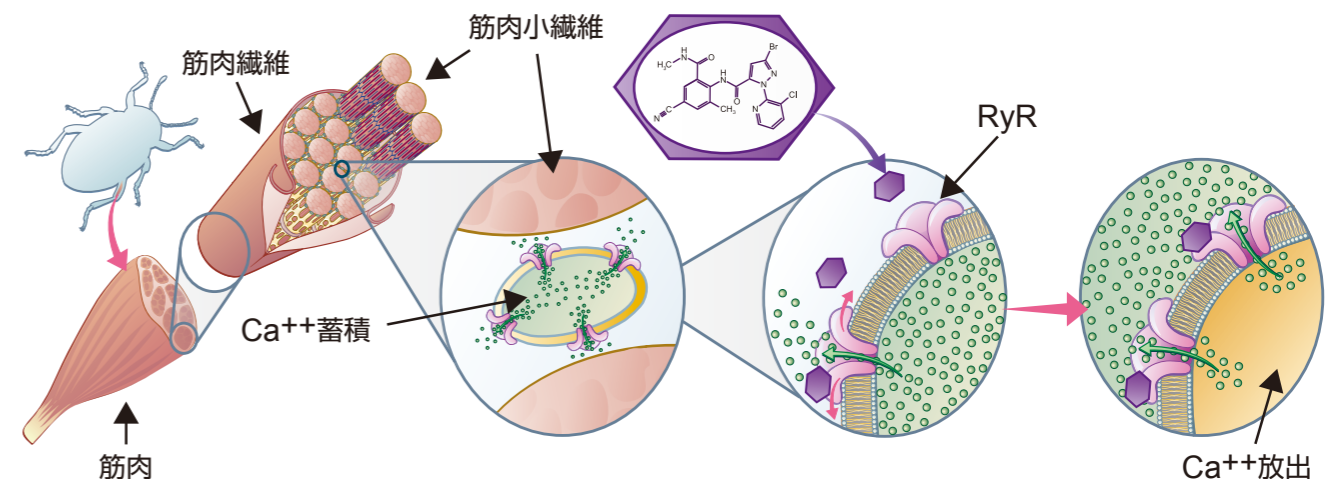
水稲の各種病害に対するブーン®のスペクトラム表

ブーン®はいもち病に高い防除効果を示します。また、いもち病以外にも白葉枯病や穂枯れ(ごま葉枯病菌)など幅広い病害に効果が認められています。

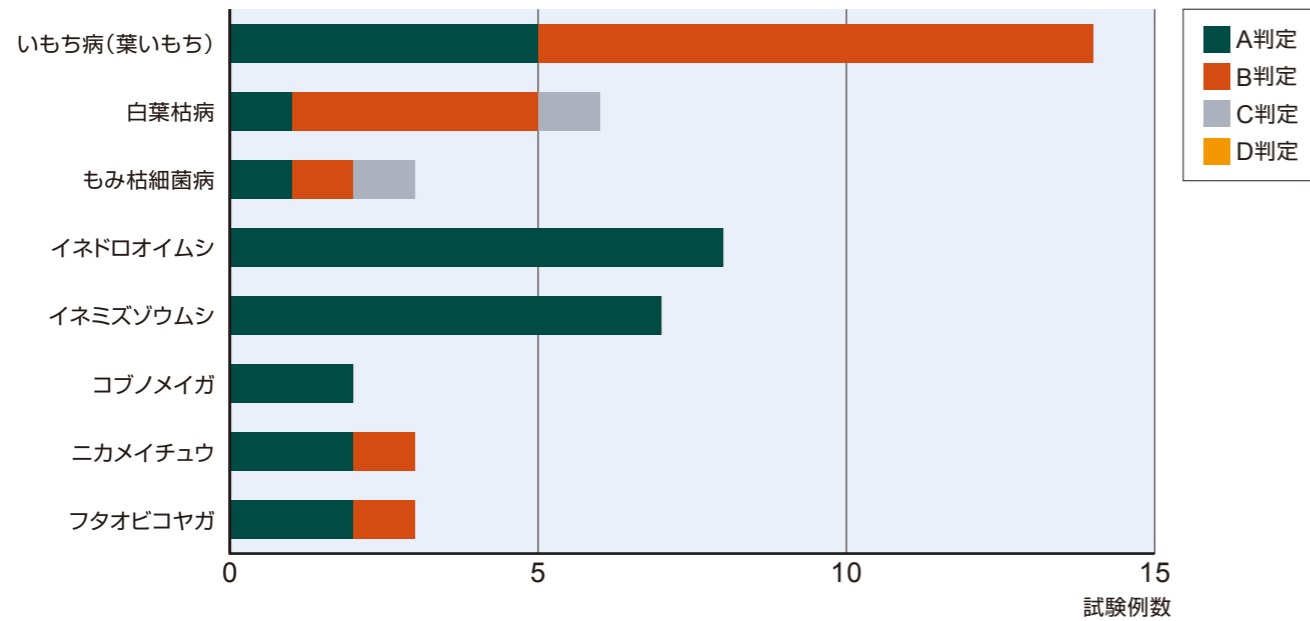
- +++ : 効果高い
- ++ : 効果あり
- + : 低い効果あり
- : 効果不足

作物	病害	病原菌	効果
稲	いもち病	<i>Pyricularia oryzae</i>	+++
	紋枯病	<i>Thanatephorus cucumeris</i>	-
	白葉枯病	<i>Xanthomonas oryzae</i> pv. <i>oryzae</i>	++
	穂枯れ(ごま葉枯病菌)	<i>Cochliobolus miyabeanus</i>	++
	もみ枯細菌病	<i>Burkholderia glumae</i>	+
	内穎褐変病	<i>Pantoea ananatis</i>	+
育苗期	苗腐敗症(もみ枯細菌病菌)	<i>Burkholderia glumae</i>	+
	苗立枯細菌病	<i>Burkholderia plantarii</i>	+
	苗立枯病	<i>Rhizopus chinensis</i>	-

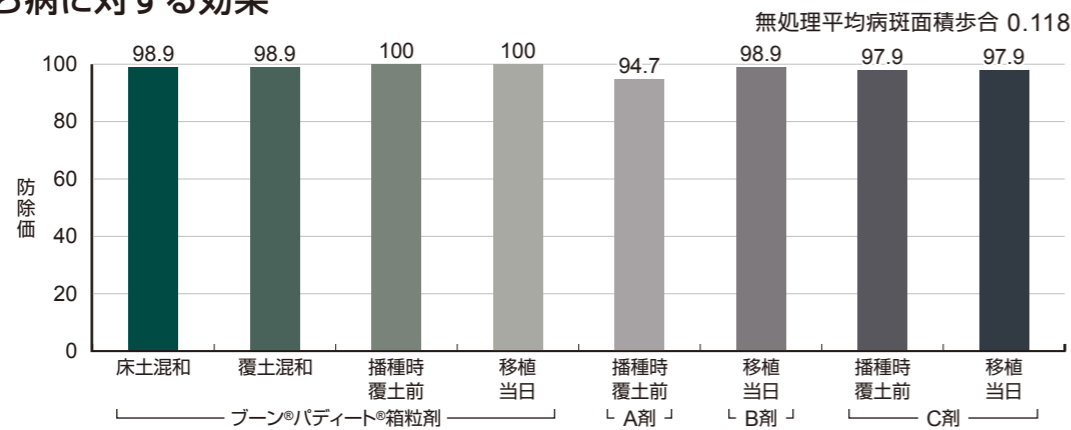
速やかな摂食阻害と作物保護作用



▶箱処理での各種病害虫に対する評価(2016年~2018年 新農薬実用化試験総合判定)

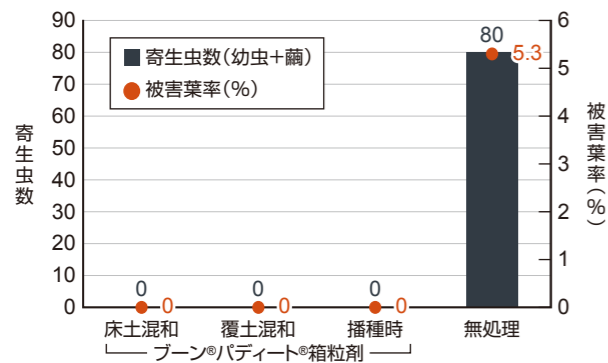


▶いもち病に対する効果



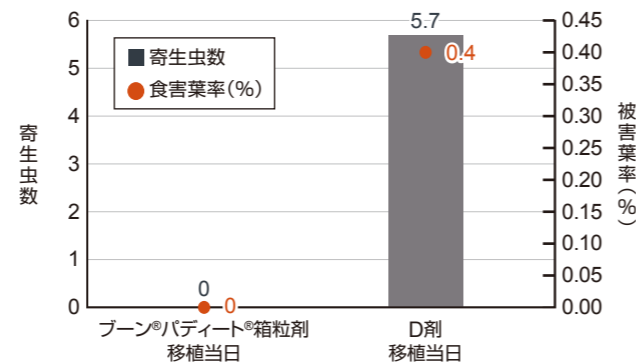
2018年 クミアイ化学工業(株) 東北防除技術研究室
 品 種: ひとめぼれ 区制・面積: 1区19.8㎡, 2連制 播 種: 4月20日 移 植: 5月22日 発生程度: 少発生
 調 査 日: 8月7日 調査方法: 各区40株について発病程度別に調査し、防除価を算出した。

▶イネドロオウムシに対する効果 (床土・覆土混和处理、播種時処理)



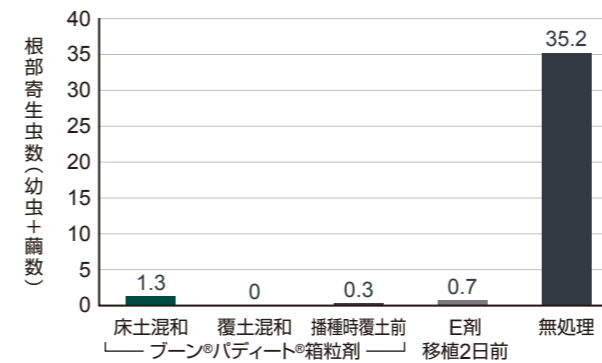
2016年 岩手県植物防疫協会
 品 種: あきたこまち 区制・面積: 1区60㎡, 連制なし 播 種: 4月17日 移 植: 5月16日 発生程度: 中発生(放虫)
 調 査 日: 6月27日(移植42日) 調査方法: 移植42日後に各区25株×3か所の寄生虫数、食害率を調査した。

▶イネドロオウムシに対する効果 (移植当日処理)



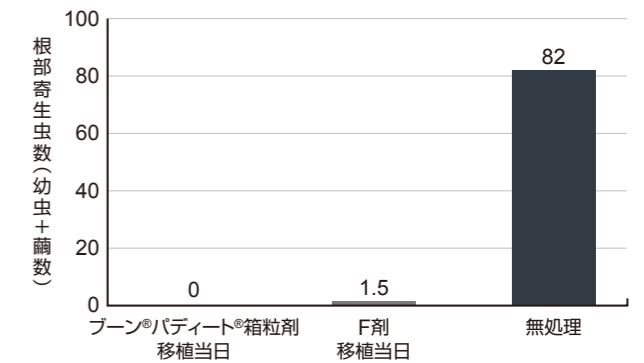
2017年 岩手県植物防疫協会
 品 種: あきたこまち 区制・面積: 1区60㎡, 連制なし 播 種: 4月18日 移 植: 5月18日 発生程度: 中発生
 調 査 日: 6月26日(移植39日後) 調査方法: 各区3か所から25株の寄生虫数(成虫、卵塊、幼虫、繭)を数えた。

▶イネミズゾウムシに対する効果 (床土・覆土混和处理、播種時処理)



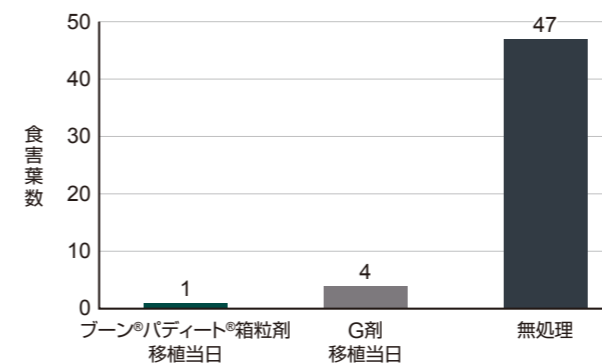
2018年 青森県植物防疫協会
 品 種: つがるロマン 区制・面積: 1区43.2㎡, 連制なし 播 種: 4月16日 移 植: 5月19日 発生程度: 中発生
 調 査 日: 7月6日(移植48日後) 調査方法: 移植48日後に各区3か所から5株を掘り取り、根部部位に寄生している幼虫・蛹数を調査した。

▶イネミズゾウムシに対する効果 (移植当日処理)



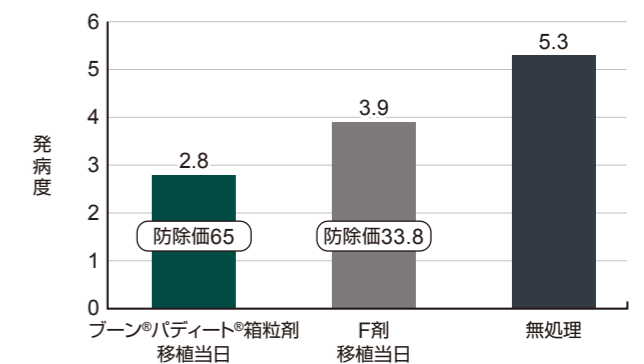
2016年 山形県農業総合研究センター
 品 種: あきたこまち 区制・面積: 1区45㎡, 2連制 播 種: 4月22日 移 植: 5月16日 発生程度: 中発生
 調 査 日: 7月7日(移植52日後) 調査方法: 移植52日後に各区5株を掘り取り、根部の幼虫数および蛹数を調査した。

▶フタオビコヤガに対する効果 (移植当日処理)



2016年 福井県植物防疫協会
 品 種: コシヒカリ 区制・面積: 1区150㎡, 連制なし 播 種: 4月18日 移 植: 5月13日 発生程度: 少発生
 調 査 日: 7月7日(移植55日後) 調査方法: 移植55日後に各区(100株×3)の食害株数と食害葉数を調査した。

▶白葉枯病に対する効果



2018年 石川県農林総合研究センター農業試験場
 品 種: コシヒカリ 区制・面積: 1区36㎡, 3連制 播 種: 4月6日 移 植: 5月1日 発生程度: 少発生(接種)
 調 査 日: 8月17日(出穂23日後) 調査方法: 出穂23日後に各区100株の発病度から防除価を算出した。